

### (3) 不良債権処理の進捗状況

#### 不良債権処理

13年3月期の不良債権処理損失額は、一般貸倒引当金繰入を含め2,611億円と、健全化計画の965億円に対しては1,646億円の増加、また、中間期での見直し額2,200億円に対しては411億円の増加となりました。

この増加要因としましては、景気の本格的な回復の遅れを反映し、中小企業、個人を中心に倒産の発生件数が依然高い水準で推移していることや大口取引先の破綻、担保不動産価格の下落等により引当金の積み増しを行ったことに加え、合併後の損失負担を極力軽減することを展望し、最終処理を進める等の処理を行ったことによるものであります。

なお、貸出金償却、バルクセール等により元本総額で約4,600億円の最終処理を実施しております。

#### 財務の健全性

「金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律第3条第2項」に基づく開示計数は、12年3月末比4,627億円減少し、12,609億円となりました。

この減少要因は、債務者区分の劣化による増加はあったものの、当行関連ノンバンクの再建支援が完了したことや、直接償却等による最終処理を進めたことによるものであります。

また開示計数に対する貸倒引当金と担保等を加えた保全率は、12年3月比9ポイント上昇し84%となっており、財務の健全性は充分確保されております。

#### <法第3条第2項の措置後の財務内容> (億円)

	13/3末 実績	12/3末 実績	増減
破産更生債権及び これらに準ずる債権	3,909	3,947	38
危険債権	6,797	8,808	2,011
要管理債権	1,903	4,480	2,577
関連ノンバンク	—	2,483	2,483
開示計数	12,609	17,236	4,627
保全率	84%	75%	9%